

## 決算報告及び事業計画

2022年5月30日

# 株式会社免疫生物研究所

(証券コード:4570)

## 全社業績(連結)

(千円)	2021年 3月期 (第39期)	2022年 3月期 (第40期)	増減
売上高	602,749	647,576	+7.4%
営業利益 (△損失)	△240,984	△122,219	—
経常利益 (△損失)	△310,511	△243,472	—
親会社株主に帰属 する当期純利益 (△損失)	△318,827	△258,767	—

## セグメント別業績

セグメント	売上高			営業損益		
	金額 (千円)	前年同期比		金額 (千円)	前年同期比	
		増減額 (千円)	増減率 (%)		増減額 (千円)	増減率 (%)
抗体関連事業	634,223	+45,621	7.8	△14,958	+40,443	—
診断試薬サービス	503,813	+21,569	4.5	58,448	+35,014	149.4
検査サービス	86,084	+9,523	12.4	△8,707	+8,336	—
TGカイコサービス	44,325	+14,528	48.8	△64,699	△2,907	—
遺伝子組換えカイコ開発事業	—	—	—	△95,255	+77,466	—
化粧品関連事業	13,352	△794	△5.6	△12,565	+1,254	—

※遺伝子組換えカイコ開発事業は、研究開発のコスト管理を行っている事業のため売上高はありません。

## 貸借対照表(連結)

(百万円)	前期末	当期末	増減	主残高
流動資産	1,124	1,129	+4	現預金 508(△95)
固定資産	713	575	△137	投資有価証券 399(△114)
資産合計	<b>1,838</b>	<b>1,705</b>	△132	
流動負債	145	228	+83	借入金(長短計) 233(+143)
固定負債	63	108	+45	
負債合計	<b>208</b>	<b>336</b>	+128	※( )は、前年差
純資産合計	<b>1,629</b>	<b>1,368</b>	△260	
負債純資産合計	<b>1,838</b>	<b>1,705</b>	△132	

## キャッシュ・フロー(連結)

(千円)	2021年3月期 (第39期)	2022年3月期 (第40期)
営業C/F	△194,145	△93,204
投資C/F	△17,233	△155,629
財務C/F	△216,000	143,998
現金及び現金同等物の 期末残高	552,022	449,184

# IBL 事業計画

## 数値目標 抗体関連事業

注1 医薬シーズの導出による収益は含まれていません

前回(2021.9.14)

(単位:百万円)	38期実績	39期実績	40期予想	41期中計	42期中計
抗体関連事業(売上高)	563	588	670	810	950
診断試薬サービス	468	482	545	600	650
検査サービス	69	76	95	120	150
TGカイクサービス	25	29	30	90	150
営業利益	△300	△54	黒字	5	82

## 今回(2022.5.30)

(単位:百万円)	38期実	39期実	40期実	41期予	42期中	43期中
抗体関連事業(売上高)	563	588	634	740	840	920
診断試薬サービス	468	482	503	600	650	700
検査サービス	69	76	86	100	130	150
TGカイクサービス	25	29	44	40	60	70
営業利益	△300	△54	△14	黒字	80	150

※ 40期実績につきましては、黒字化を目指しておりましたが、14百万円の損失となりました。(詳細は、2022年5月13日公表の決算短信を参照ください)

41期売上高予想(前回中計数値との比較)

検査サービスにおいて、2022年3月末時点で大型案件がなかったことやTGカイクサービスにおいて、大手診断薬メーカーからの受注が世界情勢の不安から受注時期が不明確となったことで、前回中計と比べ、70百万円の減少としましたが、前年実績と比べ1億円近い増加を見込んでおります。また、利益については、売上高の増加や業務改善等により、黒字化を目指してまいります。

## 開発中の主なテーマと進捗状況

標的分子	CTP(Cochlin-Tomo-Protein)	VEGF	グルカゴン	Titin-N7フラグメント	赤痢アメーバ	CTP(Cochlin-Tomo-Protein) イムノクロマト法
上市予定	2023年3月期	2022年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2024年3月期	未定
対象疾患	外リンパ瘻	クドウ・深瀬 (POEMS)症候群	血糖調節因子	神経筋疾患	赤痢アメーバ症	外リンパ瘻
申請区分	新規(クラスⅢ)	新規(クラスⅢ)	既存(クラスⅠ)	新規(クラスⅢ)	既存(クラスⅢ)	新規(クラスⅢ)
共同研究先	埼玉医科大学 試薬販売業者	藤本製薬(株)	群馬大学	神戸大学 昭和大学	海外企業	埼玉医科大学
前回進捗	医薬品承認済 (試薬販売業者) 保険適用申請済	医薬品承認済 (試薬販売業者) 2021年6月 保険適用	開発中	医薬品申請 準備中	開発中 申請準備中	—
今回進捗	保険収載後 販売開始予定	2021年6月 販売開始	2024年3月期販 売承認申請予 定研究開発中	2025年3月期販 売承認申請予定 (認定試薬として 販売を開始)	2023年3月期販 売承認申請予定 研究開発中	研究開発中 イムノクロマト法
IBLの役割	試薬開発 受託製造	受託製造	試薬開発 医薬品申請	試薬開発 医薬品申請	医薬品申請	試薬開発 受託製造

上記の他に、アルツハイマー関連、SFTS関連の診断薬を2024年3月期を目標に開発を進めております。

当社では、抗体作製技術を基盤として、治療用医薬品に適した抗体の創製に取り組んでおります。治療用医薬品開発においては、製薬企業各社がパイプラインを充実させるために医薬シーズに係る権利の譲渡又は許諾を受ける活動を積極的に展開していることを受けて、当社の人的資源と効率を鑑み、創薬ターゲットの探索及びそのターゲットに対する各種抗体の作製とそれらの抗体の薬効評価に特化しております。

2021年2月16日に合併会社「AI Bio」  
(持分法適用会社)を設立

「ダニ媒介性感染症である重症熱性血小板減少症候群」(SFTS)に関する治療用抗体医薬品候補ACT101」の、早期承認を目指して開発中

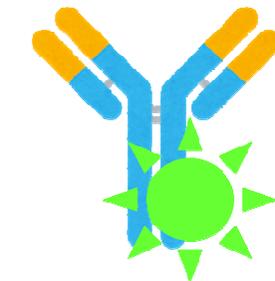
#### 【現在の状況】

CDMO(医薬品受託開発製造)企業にてマスターセルバンク(MCB)及びワーキングセルバンク(WCB)を製造し、製造条件の最適化をおこない、非臨床試験薬の製造、及びカニクイザルによる非臨床安全性試験を進めてまいります。また、(COVID19)治療薬の開発につきまして、競合他社が多いことや限られた資金をSFTS治療薬へ集中するため中止いたしました。

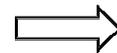
国立大学法人徳島大学と胃や腸の消化管壁の粘膜下にある未熟な間葉系細胞に由来する「肉腫」の一種とされる、GIST(消化管間質腫瘍)を診断、治療するための抗体医薬品を研究開発中。製薬企業等への導出等を目指す

### 【現在の状況】

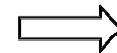
動物実験を踏まえ特許出願を完了し、さらに前臨床試験に向けた準備を進めております。今後については、導出活動を進めてまいります。



腫瘍に特異的な抗体に特殊な色素を結合させた抗体医薬品を開発



患者に投与



内視鏡検査によって色素を検出  
⇒腫瘍の位置を特定(診断)  
⇒近赤外線照射により腫瘍を治療

## 研究目標 遺伝子組換えカイコ開発事業

『今後生産拡大が見込まれる製品ラインナップ』

- ・化粧品原料(ネオシルク®-ヒト型コラーゲン)
- ・ラミニン 511-E8(iMatrix-511 Silk)
- ・体外診断用医薬品原料(大手診断薬メーカーへの原料供給)
- ・新製品開発中(今期中の製品化を目指す)

【利益創出→利益拡大】

利益の拡大を目指すために、現在製造されている抗体・たんぱく質や新規開発しているたんぱく質の生産コストの低減を、利益拡大の課題とし、当該課題の基礎研究に集中してまいります。

## 数値目標 コスト管理を徹底し、研究成果のスピード化を図る

前回(2021.9.14)

(単位:百万円)	38期実績	39期実績	40期予想	41期中計	42期中計
研究開発費	240	172	125	120	120

今回(2022.5.30) 研究項目の選択と集中の徹底

(単位:百万円)	38期実	39期実	40期実	41期予	42期中	43期中
研究開発費	240	172	95	80	80	80

## 数値目標 化粧品関連事業

前回(2021.9.14)

(単位:百万円)	38期実績	39期実績	40期予想	41期中計	42期中計
化粧品関連事業(売上高)	12	14	100	200	300
営業利益	△53	△13	13	40	70

今回(2022.5.30)

(単位:百万円)	38期実	39期実	40期実	41期中	42期中	43期中
化粧品関連事業(売上高)	12	14	13	35	50	60
営業利益	△53	△13	△12	3	10	15

黒字化

利益の拡大

黒字化

利益の拡大

前回の目標数値には、中国市場へのBtoBの販売目標が含まれておりましたが、コロナ禍における規制やロックダウン等の問題により直接現地代理人との情報交換が出来ず、販売の目途がついていないため、今回の目標値は、大幅に減額しております。また、中国市場へのアプローチについては、現在、SNSを利用した販路拡大の準備をすすめており、2023年3月期第1四半期より販売を開始する予定です。さらに、欧州市場については、順調に増加する見込みです。

## ネオシルク®-ヒト型コラーゲン配合化粧品 「フレヴァンシリーズ」

### ○国内販売

遺伝子組換えカイコ開発事業が開発した、化粧品原料「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ」を使用した高級化粧品の開発に取り組み、高品質を求めるユーザーに幅広く提供できる製品を開発し、販売拡大を目指してまいります。

### ○海外販売(中国)

中国市場へのBtoB販売につきましては、コロナ禍における規制やロックダウン等の問題により直接現地代理人との情報交換が出来ず、目途がつかっておりませんが、SNSを利用した販路拡大の準備をすすめており、2023年3月期第1四半期より販売を開始する予定であります。

### ○海外販売(欧州・その他)

欧州現地代理人は、オンライン販売会社「PolyNeo GmbH」を設立し、eマーケティング（SNS）やAmazonへの出店さらに国際展示会での展示をおこない、販売網を拡大し売上増加を目指しております。

## 今回(2022.5.30) 数値目標

2023年3月期(41期)～2025年3月期(43期)

(単位:百万円)	38期 (実績)	39期 (実績)	40期 (実績)	41期 (予想)	42期 (中計)	43期 (中計)
売上高 <b>注1</b>	576	602	647	775	890	980
抗体関連事業	563	588	634	740	840	920
化粧品関連事業	12	14	13	35	50	60
営業利益(△損失)	△595	△240	△122	黒字化 3	80	135
抗体関連事業	△300	△54	△14	黒字化 80	150	200
遺伝子組換えカイコ開発事業 (研究開発費)	△240	△172	△95	△80	△80	△80
化粧品関連事業	△53	△13	△12	黒字化 3	10	15
経常利益(△損失) <b>注2</b>	△678	△310	△243	△95		
親会社株主に帰属する 当期純利益(△損失)	△668	△318	△258	△120		

注1 ①医薬シーズ導出による収益は含まれていない

②遺伝子組換えカイコ事業は、開発に集中するため、製造・売上高については、抗体関連事業に集約

注2 持分法による投資損失を含む

**【決算報告について】**

2022年5月13日公表の「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」及び2022年5月24日公表の「(訂正・数値データ訂正)「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について」を参照ください。

**【事業計画について】**

2022年5月30日公表の  
「事業計画&成長可能性に関する説明資料」を参照ください。

## 注意事項



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品申請の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。